

# 東日本大震災からの復興の軌跡と 新たな地域農業の創造に向けて

主催 **SPIA** 実践総合農学会 Society of Practical Integrated Agricultural Sciences 東京農業大学東日本支援プロジェクト

ねらい

2011年3月11日に発生した未曾有の大災害、東日本大震災から既に10年が経過した。地震、津波、放射能災害、風評という複合被害を受けて、マイナスからの復興に多くの人々が立ち向かい、復興の歩みを一步一步と前に進めていった。こうした復興の取り組みを後世に正しく伝え、想定外の大災害に備えることができるノウハウを蓄積することは重要である。

このシンポジウムは、実践総合農学会と震災直後から福島県相馬地方で震災復興を支援してきた東京農業大学東日本支援プロジェクトが企画したものである。本シンポジウムでは、以下の三つの課題について理解を深めたいと考えている。

1) 東日本大震災から10年が経過した被災地の復興の現状と現在の課題を整理し、大災害からの効果的な復興モデルを提案する。このことは、被災地の農業復興が示す日本農業の未来の姿を示すことに通じる。

2) 東日本大震災からの復興を支えたのは、自助・共助・公助の緊密な連携であり、とりわけ破壊されたインフラの迅速な整備と、そこで営まれる新たな農業のイノベーションを支えた先端技術、そしてそれらの技術を受け入れて復興を実践した担い手の存在である。これらの取り組みの重要性を発信したい。

3) 放射能災害に伴い発生した風評がもたらした産業、とりわけ農林水産業に及ぼす影響と、その対応の取り組みの効果と課題を発信する。このことは、今後起こる可能性がある風評への対策を考える糸口となるであろう。

## プログラム

○個別研究報告の発表	10:00~11:30
○総会	11:40~12:30
開会・挨拶：実践総合農学会会長 門間 敏幸 東京農業大学長 江口 文陽	13:00~13:10
座長解題：門間 敏幸・大浦 裕二（東京農業大学）	13:10~13:20
話題提供	
第1報告 大災害からの復興の取り組みと復興モデル 渋谷 往男（東京農業大学）	13:20~13:40
第2報告 津波被災地域の農業復興を支えたイノベーション技術と担い手 安江 紘幸（農研機構 東北農業研究センター）	13:40~14:00
第3報告 放射能汚染地域の営農再開を支援するイノベーション技術 渡辺 満（農研機構 東北農業研究センター福島研究拠点）	14:00~14:20
第4報告 避難指示解除後の水田作の復興にスマート農業技術で挑戦 佐藤 良一（株式会社紅梅夢ファーム 代表取締役）	14:20~14:40 14:40~14:50
<休憩>	
第5報告 放射能風評被害への対応と農産物マーケティング 半杭 真一（東京農業大学）	14:50~15:10
第6報告 福島県相双地域の復興にかける夢 牛来 麗奈（東京農業大学 森林総合科学科 学生）	15:10~15:30
総括コメント 東日本大震災後に誕生した新たな経営体の取り組みと地域の姿 小野 智昭（農林水産政策研究所）	15:30~15:40 15:40~16:10
質疑討論	15:40~16:10
座長総括	16:10~16:15
閉会の挨拶 副会長：佐々木 昭博	16:15~16:20
オンライン大会終了	16:20